

# 施策マネジメントシート（令和 4 年度目標達成度評価）

第2次 総合計画 体系	政策 No.	6	政策名	子どもが自分らしく笑顔で育っていけるまち
	施策 No.	2	施策名	学校教育の充実
施策主管課	教育総務課		施策関係課名	学校教育課・生涯学習課・総務課・保育幼稚園課

## 1 施策の目的（①対象③意図）と指標（②対象指標④成果指標）等の推移

①対象 (この施策は、誰、何を対象としているのか)		③意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)						
子ども(小学生、中学生)		これからの社会を生き抜くための「生きる力」を育む						
④成果指標 (意図の達成度を表す指標)		単位	数値区分	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	成果指標の達成状況及び要因
1	進路希望達成率	%	目標値	88.5	89.0	89.5	90.0	1) 達成。一人1台タブレット端末の整備により、ICTの利活用等で質の高い授業環境の提供とキャリア教育、進路指導体制の充実を図れたことが、進路希望達成率の向上につながったものと推測する。 2) 達成。道徳教育、生徒指導・教育相談体制の充実に向けた取組が成果向上につながったものと推測する。 3) 達成。目標値は達成できているが、全国平均点も平成30年度以降、連続して前年度の値を下回っており、過去最低となっている。コロナ禍により児童・生徒の外遊びの減少等による体力の低下が要因とされるが、体力・運動能力を支える日頃の運動習慣について、1週間の総運動時間が60分未満の割合が最も多いことから、小・中学校男女ともに日頃からの運動習慣の改善が求められる。
			実績値	90.3	89.8	89.8	89.9	
			達成率	102.0%				
2	豊かな心を持つ子どもの割合	%	目標値	96.0	96.0	96.0	96.0	
			実績値	96.9	97.8	97.9	97.9	
			達成率	100.9%				
3	全国体力調査体力合計点	点	目標値	46.8	46.8	46.9	47.0	
			実績値	49.3	49.8	49.8	49.9	
			達成率	105.3%				
4			目標値					
			実績値					
			達成率					
5			目標値					
			実績値					
			達成率					

## 2 施策(基本事業)の振り返り

基本事業	(施策の目標達成に向けて、どのように取り組んだか。)
学ぶ力を育むための環境整備	・教育の情報化に伴うICT機器の整備やICT支援員を3名から4名に増員したことにより、1人1台のタブレット端末や電子黒板を使用した授業設計が徐々に浸透しており、質の高い授業環境の提供を行うことができた。
豊かな心を育む教育の推進	・市内の子ども達や保護者、先生たちへの様々な支援体制を充実させるため、支援センターを設置し、特別支援対策や適応指導業務、相談業務を行い、一人ひとりの教育的ニーズに合った指導・支援を行うことにより、将来の自立と社会参加に向けた必要な力を養うことが出来た。 また、子どもサポーターや学校生活支援員とも連携し、相談体制を充実させた。 ・コロナ禍における教師の業務負担軽減対策として、市内の小中学校11校に各1人ずつスクール・サポート・スタッフを配置した。
健やかな体づくりの推進	・学校給食を通じて、地産地消を推進し、児童生徒に地元生産者への感謝の気持ちと地場産物食材への興味を持たせることにより食育推進に対する意識を向上させることを目的として、「ふるさと食の日」を実施した。(年2回実施) ・コロナ禍における物価高騰等の影響を受けている保護者の負担軽減対策として、給食費の値上げを行うことなくこれまで通りの学校給食を提供できるよう、学校給食運営委員会に対して、学校給食食材費等の高騰分を支援した。 ・児童生徒に安心して安全な給食を提供するため、学校給食法に基づき、老朽化及び学校給食衛生管理基準に適合していない現在の給食施設を集約化した新給食センターの建設に向け、計画的に事業を進めた。

## 3 施策の課題(基本計画で掲げた施策の「現況と課題」、成果指標の達成状況を踏まえて、次年度以降に向けた施策の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の情報化に伴うICT機器の整備及びICT支援員を配置することで質の高い授業環境の提供は出来ているが、それを使用する教職員の授業力の向上やICT機器の活用方法の浸透が求められる。また、ICT機器の更新については、今後膨大な費用が必要となることが懸念される。</li> <li>・子ども支援センターについては、相談件数が増加しており、小中学校のみならず市内の幼稚園・保育園等からも支援要請が高まっているため、一人ひとりの教育的ニーズに合った適正な指導・支援が厳しくなっている。</li> </ul>
---

## 4 今後の取り組み(課題解決に向けた今後の取り組みの方向性・内容等)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の情報化が進んでいく中で、教職員に対して情報機器を扱うスキルが求められていることから、教職員に対し、定期的にICT機器の活用方法に関する研修会等を実施する等、育成体制を構築するとともに、ICT機器の更なる活用を図っていく。また、普及したICT機器の更新等に係る費用については、引き続き国・県へ補助金などの支援をお願いしていく。</li> <li>・子ども支援センターの相談件数が増加している中で、現在のスタッフでは人的に厳しい状況であり、今後は別事業(学校生活支援員、子どもサポーター)との連携をより深めていき、現在の支援の方法や電話相談のやり方等の改善を行っていく。</li> <li>・新給食センター建設については、引き続き令和5年9月の供用開始に向けて計画通りに事業を進めていく。</li> </ul>
--